

# 2020年 和鉄の道を振り返って

2020年 和鉄の道 Iron Road トピックス 2021. 1. 5. Mutsu Nakanishi

2020年和鉄の道 掲載記事 9件

## 1. 「鉄の起源・鉄の伝播探求<< ユーラシア大陸を東西に結ぶ鉄の道 Metal Road >>

私のライフワーク <<和鉄の道・たたら探訪>> 「鉄」をキーワードに Country Walk

その中心Itemの一つが鉄の起源と日本のたたら製鉄の源流 鉄の日本への伝播経路の解明

「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ金属器&鉄文化東遷の道」探求 2009~2019

愛媛大学東アジア古代文化研究センターが村上恭通センター長を中心として、2007年以來10数年推進してきたユーラシア大陸諸国との共同連携プロジェクト。毎年その成果報告会が国際シンポジウムとして開催されると知って、毎年聴講させていただき、報告される新しい成果に胸わくわくで聴講記録を取らせていただきました。

この毎年の聴講記録を一冊に集成し、系統的に読み出せる記録として、私蔵版の電子Book化させていただきました。

「鉄の起源・鉄の伝播探求<< ユーラシア大陸を東西に結ぶ鉄の道 Metal Road >>

人口鉄の起源聴講記録	2007~2019 7件 + 関連和鉄の道掲載記事2件の合計9件
ユーラシア大陸の東西を結ぶ 金属器&鉄文化東遷の道聴講記録	2007~2019 13件 + 関連和鉄の道掲載記事4件の合計17件



- ◎ たたら製鉄の源流 塊煉鉄法の製鉄技術がユーラシア大陸の草原ステップ地帯を東遷して、中国・日本にまで伝播する様子が製鉄遺跡の遺構・遺物で草原の道として明らかになった。  
砂漠地帯のオアシスをつなぐシルクロードも考えられるが、人・物・製鉄炉・操業が連続的につながらねば技術伝播がつながらぬことを考えるとむづかしく、通商路と伝播路の違いがあると考えられる。
- ◎ これらの調査の中でユーラシア大陸中央草原の支配者 遊牧の民 匈奴の功績は大きく、略奪国家と見られたモンゴル帝国は製鉄技術を有し、大量の強靱な鋼製武器を有する鉄の大帝国。  
遊牧の民モンゴルが中国「前漢」と対峙する大帝国との姿も明らかになった。

長年にわたる関係各国共同の現地発掘調査等に基づく遺構・遺物の積み重ねによる数々の多くの発見と知見すでに、その都度和鉄の道・Iron Roadに掲載してきましたが、聴講記録を一冊にまとめることができ、すべての成果を系統的に読み出せるようにできました。うれしい一区切りに。

村上先生ほか聴講記録を取らせていただきましたプロジェクトメンバーの皆様には本当に感謝です。

また、本年4月NHKBS「アイアンロード~知られざる文明の道~」(前・後編)として、本プロジェクトの成果を中心とした番組が美しい映像放映されました。併せて、私にとってはうれしい私蔵記録となりました。

また、ユーラシア大陸鉄文化東遷の道となったステップ地帯の草原の道の個々で新しい鉄のイノベーションを生み出し、新しい鉄文化をその地に根付かせつつ伝播していったことも特筆される。

特にモンゴルと前漢との激突の中で、それぞれが鉄の大量生産と強靱化両立の新しいイノベーション。

それが新しい社会を切り開き、現在の製鉄のベースにあることも特筆すべき発見。そして、日本に伝来した鉄も同じく、「人とモノが行き交う交易ネットワーク」を作りだし、弥生の新時代を生み出した。

## 2. 「弥生時代は500年さかのぼれる」ことがもたらした衝撃の新弥生時代の時代感

弥生時代水田稲作の始まりはBC9世紀 北部九州で鉄器のない水田稲作からBC4世紀鉄器による水田稲作へ  
 〈新〉弥生時代時代感の変更 弥生時代は「イネと鉄」の文化から「イネと石」の文化への転換

「縄文は平和 弥生は戦さ」の時代認識は過去のもの 心優しき日本人の気質は今にまで受け継がれている



### 水田稲作の始まり 縄文人と弥生人が共生していた大阪湾猪名川河口弥生の集落群 口酒井・田能・勝部遺跡ほか 弥生の村から縄文顔の土偶出土 神戸市西区 玉津田中遺跡の発掘現場 171号地点を訪ねる

コロナ禍の中で、人類が幾多の困難を克服し、乗越えてきた原動力は「他人を思う心・ヒューマン」  
 そして、「日本人の心の故郷 縄文 心優しき縄文人」「鉄とともに水田稲作の弥生時代・弥生時代は戦の時代」

とのフレーズ。でも「大阪湾沿岸では弥生人縄文人が共生して水田稲作を広げていった」との和鉄の道の記事も掲載しました。そして「弥生時代は少なくとも500年遡れる」ことが発表されてもう10数年。新しい時代感が言われる一方、「弥生は鉄と水田稲作そして戦の時代」の弥生の時代感が根強く残っている。

コロナ禍の中 心優しき縄文人 日本の縄文を世界遺産に!! と言ってきたこともあって「弥生の戦」がずっと引っかかて来た。

「日本の心の故郷 心優しき縄文」から「日本の心の故郷 心優しき日本人」と言いたい。

弥生遺跡の話が出るといつも「縄文と弥生の共生」が気になった。

2020年西神戸の弥生の大集落田中遺跡から縄文の顔をした弥生の土偶が出土。また、弥生人と縄文人が共生していたと知られる口酒井遺跡ほか猪名川河口の弥生の集落遺跡群の人骨・墓からみた縄文・弥生人の共生を調べた展示が田能遺跡で開催。

引っかかっていた新弥生時代の時代感 もう一度しっかり確認して古い弥生の時代感を払拭したいと。そんな思いを込め 藤尾慎一郎氏著 「〈新〉弥生時代 -500年早かった水田稲作-」を教科書に新弥生時代の年代と時代感の整理。

併せて、縄文の顔をした弥生の土偶が出土した弥生の大集落田中遺跡と弥生人と縄文人が共生していたと知られる口酒井遺跡ほか猪名川河口の弥生の集落遺跡群 walk の記事掲載。

縄文人も弥生人もみんな心優しき日本人 日本の心の故郷だと。

またこのコロナ禍の中で お互い共生の中で8000年もの長い永続社会を作った日本の縄文のユネスコ世界遺産登録になることを願っています。

